

令和 6 年度第 1 回あけぼの山周辺地域懇談会会議録

1 開催日時

令和 6 年 8 月 3 0 日（金）午前 9 時半から 1 1 時半まで

2 開催場所

あけぼの山農業公園資料館 2 階

3 出席者（敬称略）

渡辺 均（座長），榑野 良明（副座長），小柳 功，齋藤 和夫，杉浦 清樹，高松 秀実，成島 孝，山口 まり，涌井 正幸，以下，指定管理者（株式会社日比谷花壇）鈴木 和久，藤部 拓己，本宮 由紀子

4 事務局

奥田副市長，坂齊都市部長，浅野公園緑地課長，永野公園緑地課副参事，高橋公園緑地課主幹，中村農政課長他

5 議題

- （1）市からの公園の概要や状況に関する説明
- （2）参加者による意見交換

6 傍聴

2 名

7 主な内容

○奥田副市長挨拶

本日はお足元が悪い中，お集まりいただきありがとうございます。

あけぼの山周辺地域は昔から交通の要所であり，歴史や文化，谷津地形の自然もあり，そして皆さまのご尽力ご努力により，美しい田園景観が守られているという場所であることを実感しております。また，本日の資料の表紙にもありますが，風車と花が魅力的な観光地として，市内外の多くの方々に利用されていると感じているところです。

一方で、課題があるとも感じており、交通渋滞をはじめとするアクセスの問題、そして魅力といった運営面においても、課題というかチャレンジして改善すべきところがあると思っています。

これまでも地域の方々と色々な議論をしてきたところですが、やはりしっかりと取り組みを具現化し、より良いものにしていく、その実現を図っていくことが求められていると考えています。

今回の懇談会では、将来の羅針盤となるようなものを、御意見を伺いながら、整理していきたいと思っていますところ。市民の皆様にとって魅力的な地域を目指し、地域経済や観光の発展、柏市そのものがグレードアップしていくことに繋げていきたいと考えていますので、忌憚のないご意見をお聞かせいただきたい。

○事務局（公園緑地課高橋主幹）

資料説明

○渡辺座長

それでは、自己紹介もかねて、あけぼの山の感想、現在の公園の魅力について、ご発言をお願いします。

○成島委員

一番最初の頃に、周辺農家に御協力頂いて、土地を提供してくれる人たちで組合を立ち上げ、花を植えてきた。ある意味、この公園をつくってきた本人だと思っている。

しかし、公園を見ると、組合の管理範囲以外は何もされていないように見える。草刈などの管理も不十分、温室も使われていないなど、そもそも花畑以外の魅力が不足しており、これだけの施設がありながら、もったいないと思っている。

○齊藤委員

私は、公園隣接の水田を所有している。

利用者から、農業公園に「花」を求めていると聞くが、この土地は公園区域外の公園協力地であり、営農組合が行っている。

農政課から公園緑地課に管理が移管しているが、会社でいうと定款にあたる条例改正も行われていないため、論議が進まない。農政課と公園緑地課が協力して、公園の区域を明確にし、今後の農地のあり方について検討しなければ、この公園が生きる道はない。前回のワーキングでも、そのことは申し上げているが、残念ながら実行されていない。今回の会議は最後の機会だと思って参加している。

○高松委員

私は海外から種苗を輸入し、国内の花き生産農家に卸す仕事をしている。7～8年前から茨城で農業経営も始め、生産と新しい品種の試験栽培を行っている。

4～5年前に柏市からお声がけいただき、この公園でトライアルガーデンを始めた。仕事という観点からは、どこまでが公園か分からない、誰がどこを管理しているかも分からない、植栽メンテナンスの問題など、すごく感じている。

一方で、ポテンシャルとしては、まとまった場所にかかなりの面積があること、湿地もあり、色々な植物もあり、楽しめる場所であり、そういったメリットを活かして、子供や若者が楽しめる場所になることが、将来につながると考えている。

○山口委員

私は柏の増尾地区に住んでおり、植物の生産販売や園芸教室を開催している。また、コミュニティガーデン整備を柏の南部地区で4ヶ所、小学校で花壇を綺麗にし、植物の触れ合いの楽しさを伝えている。

あけぼの山農業公園まで花の綺麗な時期以外は来ることがなかったが、最近、トライアルガーデンが始まり、花の好きなグループは結構来ていると思う。

ただやはり、花の綺麗な時期は混むので、駐車場大丈夫かな、道路大丈夫かなって躊躇してしまう。

また、花の美しい時期以外には何もなくて、年間を通じて花なり、見るべきものがある公園にした方が良くと思う。管理手間が少ないナチュラルスティックガーデンのような工夫もあるので、特徴ある花が見られる公園にしたら

どうかと思っている。

○杉浦委員

観光協会の杉浦です。観光協会といっても普段の専門は飲食業で、柏連合会という飲食業の集まりの団体に所属している。

あけぼの山農業公園に関して、平成18年から今まで5回の懇談を重ねており、今回は6回目となるわけですが、何も変わっていないということは、この先も続いていくのではと歴史から感じました。

毎年観光協会では柏市のベストショットという形でがカレンダーに写真を選定しているが、圧倒的に花畑や桜などのあけぼの山の写真が選ばれることが多い。ロケーションに優れた場所であり、映画やドラマの誘致が可能な場所である。

また、あけぼの山にはお宝というか、魅力がたくさんあると思っている。この会議が一つ前進に繋がる会議になればと思っている。

○涌井委員

富勢地域ふるさと協議会会長の涌井です。生まれも育ちも柏で、幼少の頃から弁天様の初詣などで、この地域で過ごすことが多かったし、子供たちも連れてきていた。

この公園は皆さんおっしゃられるとおり、非常にポテンシャルのある公園だと思っている。日中だけでなく、ペルセウス座流星群観賞など夜も楽しめるとか、植物に限らず、参加者が少なくなってきましたが八朔相撲大会など、地域の歴史あるイベントなども、公園ひとつのイベントとして確立していくことも重要な点だと思っている。

○小柳委員

営農組合の小柳です。営農組合では、チューリップにはじまって、ひまわり、コスモスをメインに花の植栽を行っており、コスモスも今年から、場所によって植える時期をずらすなど、花の見ごろが続くような工夫を行っている。管理はかなり大変で、特に草取りが非常に大変な状況である。

その他、田植え体験と稲刈りや芋ほり体験イベントを実施しているが、採算的には赤字の状態である。また、雨が降ると駐車場が使えないなどの課題

もある。

ここは、入場料も駐車場も無料だし、これほどいい場所はないが、最初の時に有料にしていれば良かったのではと思う。

○ 柳野副座長

もともと私は国土交通省に勤務しており、公園緑地計画課長や審議官などの職についてきました。最後の仕事としては公園の公民連携ですが、農林水産省が中心となって作成した都市農業振興基本法という法律の制定にも国土交通省も協力して関わりました。これからの都市のありようとして、農の空間を大切にしなければならないというコンセプトが含まれており、これに関連して生産緑地法の改正や特定生産緑地制度の創設に関わってきた。

最近、この場所も視察させていただいた。その際、いくつか気づいた点や感想でお伝えしたい点が4点ある。

1点目は、皆様の努力によって非常に良い景観が保たれているという認識を持ったこと。特に、布施の弁天様という大きな歴史的資源があり、このあけぼの山自身も非常に繋がり深い土地であるため、そのポテンシャルをうまく活かしたほうがよいのではないかと考える。全体のランドスケープを再構築し、どのような景観を作り上げていくかを検討する必要があると思う。公園や農地の空間、花畑、弁天様なども含めて、全体のコンセプトを作り上げることが重要だと感じる。

2点目は、農業公園エリアの施設がかなり老朽化しているということ。このままでは持続可能性に疑問があり、再整備を検討する必要があると感じる。公園の再整備が求められている時代であり、特にあけぼの山農業公園の施設については、リニューアルが必要だと考える。

3点目は、交通インフラと駐車場の問題。ここに車でアクセスするのはかなりの苦勞を伴うと感じる。柏市全体の道路整備があまり進んでいない印象もあるが、インフラ整備との連携が必要。

4点目は、管理とマネジメントの部分。全国の都市公園では、パークマネジメントプランを作成し、管理運営の方法を考えている。ここでも、都市公園に限らず、農業公園を含めた全体のマネジメントプランを検討することが重要だと考える。公園の管理や植栽管理、また公民連携の方法などを含めたマネジメントプランをしっかりと考えるべきだと思う。

○渡辺座長

ここまでで事務局で何かご回答するところがあれば、お願いしたい。

○事務局（公園緑地課高橋主幹）

個別のことに対しては、制限時間もあるのでお答えすることが難しいが、皆さまからご意見いただいたとおり、この公園は非常にポテンシャルのある公園だと認識している。

一方で、これまでも、この公園に関して議論を重ねており、進んでいないとか、これが最後の機会という非常に厳しいコメントも頂きましたが、我々に対する叱咤激励だと感じている。

今回頂いた、意見を取りまとめて終わりにするのではなく、農政課とも一緒に柏市として、まずは意見を踏まえて実行し、前進していくことが重要だと考えている。

○渡辺座長

これで終わりにしない、前に進めるという決意ということですね。

指定管理者である日比谷花壇さんは、今まで他の施設管理を行ってきたことも含めながら、どのように感じられているかという点について、お願いしたい。

○株式会社日比谷花壇

全国で80施設を運営している。あけぼの山農業公園の自然の豊かさを魅力に感じ、非常に多くの方がいらっしゃっていると感じている。一方で、残念な点は、花を見られた方がそのまま帰られていること、もう少し長い時間滞留して楽しんでもいただけることがやはり大事だなと感じる。地域の皆さまや観光協会の皆さまとも意見交換させていただき、ご一緒したりしながら、今以上にお客様が来ていただける魅力的な公園にしていかなければと思う。

○渡辺座長

では、続いて、ハードやインフラ面での課題のうち、土地がパッチワークと

なって分かりにくいとか，公園の区域を全員が知らないとか，何か意見をいただきたい。

○齊藤委員

前回のワーキンググループでまとめた内容を実行したという実績が何一つない。

繰り返しになるが，家族連れで見に来た人が何を求めてきたのかというと花を見に来ている。でも残念なことに，それは営農組合が担っていて，公園管理者ではない。ですから，せっかく来てきた方が，その花を見てそのまま帰ってしまう。

前回から話していることですが，点在する施設を1ヶ所に集約してほしい。特にサッカー場は農業振興に貢献せず、むしろ迷惑をかけており，なんとかしてほしいとの意見もある。サッカー場の場所に、施設を集約することを提案したい。前回でもそういった形で意見がまとまり，当然そうなると思っていた。

また、駐車場も適正に管理されておらず、十分な駐車スペースが確保されていない。農家の人は保守的なので，市のまちづくり公社などが農地を一括して借り上げ、花や緑、果樹の収穫体験ができる施設を作るべきではないか。以前は布施弁天の景観も含めたゾーニングを行い、絵も作成したが、実現には至っていない。これが最後の機会になるかもしれないという思いで再度提案したい。

○渡辺座長

私もこのあたりの経緯を知らないのですが，過去にこれだけ議論をしてきて，また同じような問題が出てくる。なぜこういうことが起きるのか，分かりますか。

○事務局（公園緑地課高橋主幹）

これまでの議論の中では，市，民間企業，営農組合，周辺の農家の方など，様々なプレイヤーがいる中で，実際誰が何を担うのか，また具体的にどのようなスケジュール感で進めるのか，コストはどれほどかかるのかなど，具体的に実行していく観点において，十分に議論できていなかった点が不足

していたと感じている。

今回の懇談会においては、繰り返しご意見いただく部分もあるかと思うのですが、具現化に向けた点についてもご意見をいただきたいと思っている。

○渡辺座長

過去の案について再度議論しつつ、ブラッシュアップして予算化に進みたいということだと思います。次回は議論しながら、さらにより良いものをディスカッションしながら進めるということによいか。

○事務局（公園緑地課浅野課長）

公園緑地課の浅野です。過去のワーキングの結果は私も確認しているところですが、高橋が言ったように、やはり誰が何をどういう形にしていくのかということの部分は少し詰めが甘かったと感じている。

ただ、今回の場合は、都市公園であるあけぼの山公園と農業を主体としてきた農業公園をどう一つの形にしていくのか、榑野副座長が言われたように、ランドスケープといいますか、最終的に皆さまのご意見をもとに我々で整理していく作業が必要だと思っている。

ですから、今言われたような意見は非常に貴重な意見だと思っているので、改めて参考にさせていただきたい。

○渡辺座長

前回のも含めて、さらにより良いものを皆さんでつくっていくということで、皆さんよろしくお願いします。

次に、交通、駐車場の問題及び、園の中の回遊性関する課題についてはいかがでしょうか。

○高松委員

交通の課題、施設の集約化においても、やはりパッチワーク状態である土地を解決することに戻ってしまうのではないか。何をやるにしても、そもそも論になるが土地の問題が解決しないと、先に進まないと思う。そこが解決できれば、他のことは話し合って形にしていくことができるかと思う。

○山口委員

交通に関しては、公園全体にアクセスしやすい周遊道路が必要ではないか。現在は公園内で移動する際に迷うことが多く、あぜ道を通るのが不安であるため、公園全体を一周できるような道路の整備を望んでいる。

○柳野副座長

お二人の話を統合するとやはり全体をどうするか、都市公園、農業公園の全体のエリアをどうしていくかというコンセプトがあって、それに基づく各エリア利用を結ぶ周遊ルートを設定すべきである。

これにより、訪問者はエリア全体を一回りでき、少し歩けば健康増進にもつながる。そういった周遊も具体的な提案になってしまうが、やはり考えておいたほうがいいなと思う。

○齋藤委員

土地に関しては、この区域は農業振興区域であり、まずこの区域の除外をおこなっていかなければならない。一方で、土地改良区に対する賦課金というものがあり、区域の除外が行われると残りの土地所有者で賦課金を収めることになることから、賦課金が上昇するのではと思っている。そのあたりも頭の片隅にいられておいてほしい。

○渡辺座長

そもそも、公園へのアクセスについて、市として計画はあるか。

○事務局（公園緑地課浅野課長）

アクセスに関して、チューリップや桜の時期には公園周辺が非常に混雑する状況については十分に認識している。現在、国土交通省で田中調節池の堤防のかさ上げ工事を進めており、堤防沿いには管理用道路が整備されることとなっている。

この道路を市で市道として活用していけば、県道から直接公園内にアクセスできるようになることから、現在の混雑の解消が期待できる。

設計や調査が進行中であり、この計画が実現すれば、アクセスの改善が大

いに期待されると思っている。

○渡辺座長

いつ頃できるのか。

○事務局（公園緑地課浅野課長）

現在，なるべく早めにということで調整中で，申し訳ないが，明確な期限を申し上げられない。

○渡辺座長

三つ目の議論として，施設の配置・新たな施設の必要性や使い方について，御意見はあるか。

○涌井委員

サッカー場はなぜ潰すことができないのかは，後で教えてください。

道の駅のようなものができ，アクセスも整備されれば，非常に魅力のある場所になっていく。

特色ある農産物の販売やナチュラルスティックガーデンなどがあれば集客力が高まると期待されると思う。また、文化や登り窯なども活かしたアートを前面に出すことで、通年で集客できる可能性がある。

ただし、施設を一箇所にまとめてアクセスを良くすることが重要であり、魅力的な建物の整備も必要である。道路状況の改善が見込まれているが、一般道路の渋滞も避けられない。

北柏駅北口の整備が進んでいるが、北口を布施弁天の表参道というぐらいの役割を担わせるなど、全体を巻き込んだ構想が必要だと思う。

○渡辺座長

サッカー場の件について方針を伺えるか。

○事務局（公園緑地課浅野課長）

サッカー場について、現在土日はほぼ常に使用されているところである。

サッカー場の面積は約 2.8 ヘクタールあり、その移転先はかなり限られ、

適切な移転先を見つける必要があるが、これが非常にネックとなる。

また、利用されていないということであれば違うが、やはり多くの方がサッカー場をご利用されているため、少し難しいのではないかと考えている。

○渡辺座長

千葉大学では、柏市内の小学生を受け入れて、農場体験を行うようなことをやっている。あけぼの山でも、子供たちがバスに乗って来るような機会があると、もう少し施設利用率も上がってくるのではないかな。

市内の学校で農業や食に関する取り組みを授業の一環として組み込むことができれば、農業公園の有効利用が促進されると思う。

○齊藤委員

小学生が観光バスで布施弁天を訪れることがあり、その際に住職の講話が好評である。もっと多くの小学生が来られるようにするためには、やはりアクセスの改善が必要である。現在、観光バスが入れる道路や回転場所が不足しているため、サッカー場を取り壊すことでアクセス問題を解決するアイデアが出てきた。これを実現できれば良いと考えている。

○涌井委員

職場や学校からの訪問はありがたいが、アクセスの難しさが問題である。富勢東小学校の子供たちは、あけぼの山での活動に参加しており、ビオトープ作りや蛍の育成、陶芸体験などを行っている。今後も地域の子供たちにこうした体験を提供し、施設をフル活用していくことを希望している。

○山口委員

資料にある会議室や加工実習室はどれぐらい利用されているか。また、土の持ち込みは可能か。可能であれば、園芸教室を依頼される会場を探す際に、土の持ち込み不可である場合が多いので、便利だと思う。

○事務局（公園緑地課高橋主幹）

土の持ち込みは可能である。

○事務局（公園緑地課浅野課長）

施設の利用状況について、農業公園の有料施設には本館研修室、会議室1、加工実習室、資料館、芝生広場1と2、柏泉亭がある。令和4年度の利用者数は、本館会議室1：約900人，加工実習室：約1,300人他，全体として年間利用者数は約50,000人。

○事務局（都市部坂齊部長）

アクセスの問題について多くの意見が寄せられているが，数年前，市では公園事務所前に路線バスの回転場所を整備し，我孫子駅からあけぼの山公園まで運行している路線バスの延伸を図った。これにより，最寄りのバス停から公園入口まで500メートルほど離れていたが，土日や平日の開園時間帯においては，歩かなくても来園できるよう，利用者への便宜を図った。

○渡辺座長

続いて，ソフト面，管理運営面に対する課題ということで，公園の魅力について御意見等あるか。

○杉浦委員

私としては，現在いろいろな話を聞く中で，問題が多く浮上していると感じている。例えばグラフを見ると，あけぼの山公園とあけぼの山農業公園という二つの名称がある。あけぼの山公園は市が管理している公園であり，行政によって運営されている。

一方で，あけぼの山農業公園も同じく存在しており，これらの名称が統一されていないと，お客さんを誘致する際にどちらを指しているのか，どちらの駐車場を利用するのかなど，混乱が生じる可能性がある。二つの名称が存在する現状では，紹介や誘致が難しくなると思う。しっかりと一本の公園として整備されることが理想である。

○柳野副座長

全体のコンセプトとネーミングが重要である。例えば、横浜の「ふるさと村」では、農業施設や緑地を含む全体を一つの名前で統合している。

このように、例えば「フラワーパーク」などの統一した名称で全体をパッ

ケージ化することで、回遊性や地場製品の販売促進が可能となる。全体を統合するネーミングが重要である。

○渡辺座長

続いて、公園や周辺地域における消費と還元に関する持続性に関する課題についてはいかがか。

○成島委員

公園の整備により、小さな子供を持つ家族が増えると、周辺農家もその機会を活用できる。地域支援や助成金で運営し、市外からの利用客も増加している。私のみかん栽培の需要も増え、周囲の農家も活動を始めている。自身の成功が周りの農家の活動を促進することを期待している。

○高松委員

公園全体の魅力を高めるためには、風車周辺だけでなく、日本庭園や入口付近なども整備する必要がある。アジサイなど季節ごとに美しいスポットを作り、品種を変えることで観賞期間を延ばすと良い。また、観光バスの活用も有効である。

○渡辺座長

花の栽培には多くの手間がかかり、持続可能性が課題となっている。管理や費用の増加に対応するために、どのような対策が考えられるか、またどのように進めていけばよいかについてのご意見やご感想を伺いたい。

農業の問題である高齢化や後継者不足について、ここで議論するのは難しいですが、新しい若い世代を巻き込む形での農業の持続可能な体制を築いていければよいと思う。また、みかんの栽培や新しい品目のトライアルを通じて、拠点としての活動を強化し、産業資産化を進めることも重要だ。

今回の会議で更なる意見交換を行い、施設の老朽化や再整備についても検討していくべきである。

○柳野副座長

公園担当が所管になったということもあり、都市公園の区域を拡大し再整備を進めることが重要である。再整備には補助金を利用できるため、これを活用して農業公園や市が保有する土地の整備を行うべきではないか。

また、公共施設として整備されると、災害発生時には復旧のための国の予算が利用できるメリットもある。これらの点も考慮し、持続可能な運営を目指すといいと考える。

○渡辺座長

時間となりましたので、本日はこれまでとします。

以上